

「かご作り」の驚くべき造形性

英語で「かご作り」を意味する「バスケタリー」。しかし現在では、繊維素材を駆使した造形という新たな意味も加わっている。この分野で活躍している福田笑子が、新作・近作14点からなる個展を開催している。

福田の作品は、モノフィラメント、ビニール、シリコンなどの芯材に、苧麻（ちよま）やサイザル麻を編んで作られている。なかでも螺旋（らせん）状に編む「コイリング」を多用しているのが特徴で、編み目の軌跡と線が作り出すリズム感、複雑にねじれた形状が大きな特徴だ。

そこでは素材と構造と形態が密接に結びついており、人為と自然法則が互いに影響を与えながら、ひとつのフォルムへと收れんしていく。時には作家にも予測できないねじれや回転が生じるのだが、それすらも糧にして前進することで、突き抜けた造形に達するのである。

筆者が思うに、ほかの立体表現よりも明確に「弹性」を感じられるのが、バスケタリーの魅力ではないか。作品の大きさは両手でかかえられる程度だが、そのポテンシャルは実寸よりもはるかに大きい。

本展では、ゆがんだ面に角を立てて部分的に回転させた「曲がり角」や、交差する線の相互作用で螺旋とねじれの構造を持つ「交差螺旋」のシリーズ作品が見られる。とはいっても、初見で技法を理解するのは難しい。作家が在廊していれば質問をして、理解を深めてほしい。単に見るだけでも美しい作品が、一層の深みをもって迫ってくるだろう。（GG=河原町通四条下ル 14日まで 木休）（小吹隆文・美術ライター）

美術

第3種郵便物認可

「かご作り」の驚くべき造形性

福田笑子展

デザインの時代開いた熱情

石岡瑛子の

2021年(令和3年)11月6日

広島市産の陶土を使用してお

り、ゆかりの地

での回顧展となつた。

半磁器に象嵌した「白妙窓」、

色土を象嵌した「象

塗窓」、京都・西堀寺のコトか

一方、色土をはねて焼く面窓は

白砂窓や象嵌窓野、苔泥彩と

いった今井作品の変遷をたど

る展示(広島県東広島市西条

栄町・東広島市立美術館)

2021年(令和3年)11月6日

広島市産の陶土を使用してお

り、ゆかりの地

での回顧展となつた。

半磁器に象嵌した「白妙窓」、

色土を象嵌した「象

塗窓」、京都・西堀寺のコトか

一方、色土をはねて焼く面窓は

白砂窓や象嵌窓野、苔泥彩と

いった今井作品の変遷をたど

る展示(広島県東広島市西条

栄町・東広島市立美術館)